

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立洛北高等学校 】

1 実践テーマ	I・III
2 実施対象者	京都府立洛北高等学校 講演会（実技含む） 1年生 280名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 ） ② 行事名（ 人権学習 ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	京都アップス、京都車椅子駅伝チーム監督（日本車椅子バスケットボール連盟強化指導部委員、シドニー・北京パラリンピック日本代表コーチ）である坂野晴男氏を招いて、東京2020パラリンピックを目指している選手とともに、「ともに生きる」というテーマを掲げて、人権学習とのコラボレーションする事業として実施する。事前学習として、パラリンピックについての知識や、車椅子バスケットボール選手の想いを感じ取るためのDVDを鑑賞し、パラリンピックの4つの価値（勇気、強い意志、インスピレーション、公平）について生徒たちで考えさせて発表し合うなど、自分の人生に置き換えてがんばる気持ちを共有し、新たな一歩を踏み出すための勇気と希望を持たせる。また、生徒たちが車いすに乗り、実際に車椅子バスケットボールを対戦するなどの経験を通して、共生ということをしっかりと感じ取らせ、スポーツを通じて人間性を高め、東京2020オリンピック・パラリンピックに対してだけではなく、東京2020が未来に残せるものは何なのかを考えさせながら関わりを持たせることがねらいである。
5 取組内容	令和元年10月25日（金）6時限目 オリパラ推進事業・人権学習 講演会（実技含む）「ともに生きる ～車椅子バスケットボールを通じて～」 講師 京都UPS（アップス）監督 坂野晴男氏 実技指導 京都UPS（アップス）山本英嗣選手・東武志選手 カクテル 阪根康子選手 レイク滋賀 清水千波選手・八橋隆二選手・平田博之選手

(1) パラリンピックとは？

① 事前学習

「I'm POSSIBLE」の教材を活用して、パラリンピックの発祥からパラリンピックの4つの価値などを生徒に投げかけて考えさせた。中でも、車椅子バスケットボールの香西選手の活動とメッセージから、新たな一歩を踏み出す勇気と強い意志を感じ取らせることができた。また、「公平」や「共生」について生徒たちで意見を出し合うことで行動や生活を見直し、これらの事前授業から、東京2020が未来に残せるものは何なのかと問いながら生徒たちが東京2020と関わりを持ち、さらにはスポーツと関わる中で人間力を磨くということを体育理論において学習した。

(2) 車椅子バスケットボールを通じて…

① 講演会（実技含む）の内容



車椅子バスケットボールについて説明する坂野氏

坂野氏から、車椅子バスケットボールの競技について、選手が実際に動くことでわかりやすく説明を受け、選手によるツーメンでパスを回してシュートを打つというデモンストレーション演技が実施され、生徒たちも興味津々と見いて、シュートが決まるごとに歓声が沸き起こった。



デモンストレーション

1年生全員が実際に車椅子に乗りました

その後、選手の指導の下で生徒たちも車椅子に実際に乗り、コーンを回りバックで進むというコースを1年生全員が体験した。コーンを回ることが難しく、コーンに乗り上げたり、ぶつかったり、またバックでは車椅子が思う方向に進まず悪戦苦闘していた。さらに、クラス対抗で車椅子バスケットボールの試合を実施し、1年生の担任チームも参戦し、大いに盛り上がった。



クラス対抗で車椅子バスケットボールの試合を体験

実技のあとは、各クラスに1名の選手がついて、これまでの人生や生徒の質疑応答に答える時間が設けられて、時間を超えて話がはずみ、生徒たちの心に残る素晴らしい時間となった



クラスごと分かれて選手が想いを語った



生徒代表謝辞

6 主な成果

事前学習として使用した教材「I'm POSSIBLE」の中でも、車椅子バスケットボールの香西選手からのメッセージが生徒の心に深く響くものとなった。特に、香西選手がアメリカの大学を卒業するとは夢にも思わなかったという話から、進路について悩んでいる高校2、3年生の心にも大きく刻まれたようで、「一步を踏み出せば世界は変わる」というメッセージに込められた強い意志と勇氣、インスピレーションというパラリンピックの価値が、これから待ち受ける困難を乗り越えていく上でとても重要であることを認識するきっかけとなった。さらに、オリンピックやパラリンピックについての歴史や知識を学ぶことで、より東京2020に興味関心が深まった。

高校1年生は、人権学習もふまえてのイベントとなった車椅子バスケットボールの選手とのふれあいの場を通じて、共生という簡単な言葉だけでは表せない大きな力を選手の方々の講話から感じ取ることができた。終了してからも名残惜しさを感じる生徒もいて、選手の皆さんもあつという間の2時間で、とても楽しく充実した時間が過ごせたと言っていただけの講演会となった。車椅子に全員が乗って体験する時間も、生徒たちが競争してみたり誰が一番うまく乗れるか競い合ったりと、どの場面においても自分たちで雰囲気盛り上げて、担当している選手の方々も熱のこもった指導をしていただき、こちらの不安を吹き飛ばしてくれた。また、クラス対抗のゲームではクラスを超えての応援で、各チーム1名選手の方が加わっていることもあるが、パスがうまく通りシュートがどんどん決まり、レベルの高いゲームが繰り広げられた。1年生担任チームとスポーツ総合専攻のクラスとの試合は、見ている生徒も興奮して、大変盛り上がるゲームとなった。

1年生には車椅子の生徒もいることで、共生や公平という内容について生徒たちもさらに意識を高めることとなり、今回の事前学習と講演会との成果の高さを感じた。また、選手の方と一緒にプレイ

することとそこからの方々からの講話を通じて、勇気や強い意志という人として必要なものを感じ取った事業となった。今後人間力を高めるために生活にはりを持って、一歩踏み出す勇気を持ってチャレンジし、さらなる飛躍を期待したい。



生徒たちから花束贈呈

<p>7実践において工夫した点 (事業の 特色)</p>	<p>「I' m POSSIBLE」の教材をうまく活用して、できないと思っていたことができるのではという目標を達成する力を養うきっかけをつかみ、これからの人生にとって大切なことを伝えられるような取組になるように内容を吟味した。その中でも、パラリンピックと車椅子バスケットボールについて事前に興味を持たせる取り組みを実施した。普段の授業などで自分たちが実際に行っているバスケットボールのリングに、椅子に座った状態でシュートが入るのかということをも1クラスだけだがチャレンジさせ、1学年の廊下の掲示板にパラリンピックの情報を定期的に掲示するなど、事前学習と事業啓発を重点的に実施し、生徒たちの関心が高まった状態で、講演会がスムーズに運営できた。各クラスに1名の選手がついて、車椅子に乗ってみることを全員が体験し、クラス対抗でバスケットボールの試合、最後にはクラスごとに講話と、選手との関係が近い状態で過ごすことができたことが、充実した要因でもある。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>今回の講演会は大変貴重な時間となり、他学年からも要望が殺到した。高校1年生の生徒しか実施することができなかつたため、今後すべての生徒が3年間で1度は経験できるように調整することが課題である。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>来年度以降の実施について、予算の関係上同じ内容で実施することは難しいかもしれないが、東京2020終了後に残せる財産としてできる限り生徒が主体となって活動ができる事業として継続することが求められる。</p>